

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4071200630		
法人名	社会福祉法人 福岡ケアサービス		
事業所名	グループホーム安養 東棟		
所在地	福岡市西区生の松原3丁目13番15号		
自己評価作成日	平成29年5月9日	評価結果確定日	平成29年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=4071200630-00&amp;PrefCd=40&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=4071200630-00&amp;PrefCd=40&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成29年5月17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

閑静な住宅街に立つ南欧風の建物が特徴。テラスの屋根を開けると春は桜吹雪や暖かい日差しが、夏は打ち上げ花火が響いたり、冬は深々積もる雪と四季の風情が感じられます。月例行事も1月の初詣や2月の節分3月のひな祭りつ食事外出4.5月桜や藤の見学など他にも沢山、苑内はもとより外出もバラエティーに富み季節感が感じられるレクを提供しております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

この施設は、運営方針に示されている「質の高いサービスを心をこめて提供する」「常に思いやりの心と笑顔で接する」事を重んじている管理者のもとで、人間らしい生活ができ、高齢者が虐げられることなくその人らしい個別重視の支援が出来るよう取り組んでいる施設である。入居者が医療機関を受診する際は、基本的に職員対応で同行しており、受診記録用紙を持参し、上段には普段の身体記録を記入して行き、下段に主治医が直接記入してもらう仕組みで記録を残している。個人ファイルには、普段の様子やはなし言葉などが日々の記録に記入されて、適切な支援が出来るよう細かく書かれてあることが確認できた。家族の運営推進会議出席が大変多く、施設訪問しやすい環境作りができています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はいつでも確認できるよう玄関に掲示しておりいつでも確認出来るようにしている。内部研修でも周知している。	運営方針に示している様に、高齢者がその人らしく、人間らしい生活が続けられるよう、質の高いサービスを心をこめて提供する姿勢を持っている。管理者は職員に、今日の行動目標を持ち仕事に入ってもらおうよう申し送りで伝え、成功事例は会議で評価し情報共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りに入居者の参加や模擬店を出したりしている。秋祭りには地域の中学生の演奏や小学生のダンスなどで交流	今後は、更に地域に馴染むよう草むしり、廃品回収に参加することを検討している。法人が実施したグループホーム見学会に、地域の方々10人程の受け入れを行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に関わりのある方々の見学を受け入れを行っている。運営推進会議でご家族向けには実施	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況や取り組みなど施設内における様々な件につき報告を行い、それに対しての意見については今後の運営に繁栄するよう早急な対応を行っている。	家族が多く参加が出来るように曜日設定され、会議後の昼食を一緒に摂りながら、和やかな雰囲気それぞれの家族の意向確認が出来、次回の開催にも興味があり参加意識が高い。	地域包括センターや行政からの参加者が増えるよう、今後は年に数回でも平日開催も視野に入れてみることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ関係部署へ連絡相談を行っているが蜜までとは言えない。	地域のグループホームブロック協議会、勉強会に参加し情報収集している。市役所からのアンケート調査に協力している。市町村担当者に、生活保護利用の入居者の医療面の相談を行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修を行っている。日常からスピーチロックについては都度指導。	入居者主体の時間の流れを意識するよう心がけて支援しており、職員主体の仕事の流れにならない様になっている。スピーチロックに関しては、職員同士で注意喚起できる風土が育ちつつある。職員が受けた内部研修記録を確認した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で研修があり参加出来なかった職員にも資料に目を通してもらうなどしている	現在、制度利用の入居者が数名おり、管理者・副主任が対応している。今後は他の職員も含め対応し、入居者の現状に合うよう制度を利用して支援する予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約書は読みながら説明、都度質疑をとっている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来苑時に意見があるときは都度聞いており早い対応を心がけている。	入居者がいつも同じ服を着ているように見られないために、前日に脱いだ洋服は選ばずに、同じ服装にしないルールを実践している。家族の希望を聞き、早期対応を心がけ信頼関係を築く努力をしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日中でも意見があれば都度聞くようにしており対しては早々に対応するように心がけている。	管理者は、ミーティング前にレジユメを職員に配布し意見を聞き取り、会議に繋げ支援に不安要素がない様になっている。現場職員からの、備品購入・買い替え希望など適宜に対応検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の中に担当を持ってもらったり、少し難しいことにもチャレンジしてやり甲斐を持ってもらう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	やる気や性格を重視している。本人の能力や特技を活かせる仕事を任せる。	職員採用面談では、経験にとらわれず入居者主体のサービスができる人材を求め、まっさらな気持ちを持ち、やる気ある職員を採用している。創作意欲のある職員は、物作りや折り紙に実力を発揮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	法令遵守や倫理について法人研修を行っている。	法人の理事長・事業部長が職員に人権教育研修を行い、必ず年1回の内部研修を年間計画に組み込んでいる。全ての職員が受けられるように、月に2回開催している記録を確認した。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実技については日常の業務の中で、知識についてはミーティングや関係各所と連携して実施		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで他施設の担当との交流の機会を持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より面談を行い不安や要望等確認しサービスの提供を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前契約時に面談を行い、要望や話を聞く場を設けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることや健康状態・精神面を把握し相談の対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事作業など一緒に行ったり暮らしを共にする関係作りを行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などで、ご家族と一緒に過ごす場面を作ったり相談しながら共に本人様を支えて行ける関係作り。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間など作らず馴染みの方がいつでも来苑出来るよに環境を作っている。	夜8時、9時の家族面会も受け入れている。入居前に自宅で犬を飼っていた方が、わずかも犬と触れ合えるよう自宅に寄ってみたり、入居者の姉の所に会いに行ったりすることで、帰って来た時の表情が明るく、関係継続の支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや行事を通し利用者同士が関係良く過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人家族の経過をフォローし、次のサービスや相談援助を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人家族との会話から希望や必要なことを検討し思いや意向の把握に努めている。	家族や主治医、入居前のケアマネージャー等の情報を参考に、本人の言葉や表情・行動を記入した日々の個人記録を元に、職員カンファレンスで意向の把握や情報共有に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入居前のサービス利用先への情報収集を行い把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック・日誌・申し送りノート等で情報の共有し、心身状態の変化の把握		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族・本人様の意向を元に、職員間で話し合い介護計画を作成。入退院時はプラン見直しの実施	日々の様子をモニタリングし計画作成者と担当職員が立案したものを、ユニットカンファレンスで話し合い原案を作っている。管理者のチェック後に日勤者が本人や家族に説明し同意を得ている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	伝達ノートやカンファレンスを行い見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状況状態を把握し都度対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に園児交流会や地域の行事へ参加をしている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様やご家族の希望を優先している。協力病院がありいつでも相談できる体勢作りしている。	訪問診療を受けている入居者もいるが、職員付き添いで協力病院への受診を行なっている。その際、日頃の様子が記入された受診記録用紙を活用している。主治医からのアドバイスや処方の変更なども返書として記入している為、スタッフ間の情報共有ができており、家族へも電話で報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護の利用、受診や特変時の相談し早期の受診を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院が出来るよう働きかけたり関係者との情報収集に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	各方面と連携しながら又ご家族からの要望をふまえ本人様やご家族へ	昨年末に看取りの事例が1件あった。入居時に看取りの指針を説明しているが、その時期がきた場合に再度説明し、家族の理解や了解が得られた場合は施設での看取りの対応を行っている。家族の決心が変わる場合もあるので、主治医との密な連携で、家族に寄り添った対応ができるように心がけている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や消防の講習会に参加し知識を身につけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や研修を行いまた勉強会などで対応出来るよう努めている	年に2回の避難訓練を夜間も想定して実施している。職員ミーティング時にも入居者の個別性に合わせた介助方法や避難経路を指導している。又、防災センターでの研修も勧められている。施設全体で大雨による水害予防の為の土嚢を準備している。	防災の対応として、地域との連携が特に不可欠である。施設内の避難訓練だけでなく、地域の方も参加できるような働きかけを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様を尊重や配慮した声かけを行っている。またトイレやおしっこなど言葉が無い声かけ、さりげなくお連れ出来るようになる。	本人の尊厳を損なわないような態度や言葉かけには特に注意している。排泄に関する支援では、本人の所作や表情を読み取り、声に出さずにさりげなく誘導するなど、周りに羞恥心を感じないように心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮せず希望や思いが出せるような質問・提案の声かけ		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムや体調に配慮しながらひとりひとりのペースや希望を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	場面に応じた服装選びに配慮しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が美味しく食べれるよう席に配慮。個々の力に応じテーブル拭きや食器洗いなど一緒に行っている	役割を持ち生き生きと動けるように、食事の準備や片付け、食べる動作についても、本人ができない部分のみを手伝うように心がけている。給食カードを笑顔で押している入居者の様子が見えた。行事時にはお好み焼き、餃子などを入居者と一緒に手作りしている。包丁を握り腕をふるう入居者もいるとのこと。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事の提供。状態に合わせた食事形態。水分については1回の摂取が少ない方について声かけや回数をふやすなど工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に合わせた口腔ケアを行い自立の方でも必要に応じ仕上げをしている。清潔や口腔状態に問題があれば訪問歯科に相談している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め適宜誘導している。日中は布を使用したり夜は紙を使用したりして個々のケアを行っている。	昼夜共にトイレで排泄ができるように排泄記録を活用した支援を行っている。夜間も職員が時間誘導するのではなく、ベッド横についている赤外線センサーが反応したときに、さりげない見守りや介助をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適宜水分摂取を行い、散歩や体操を行うなどして排泄に繋げている。必要に応じ排便コントロールを先生と相談しながら行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	タイミングや体調に合わせて入浴の実施。季節により菖蒲湯やゆず湯を提供している。	基本的に入浴回数の制限はしておらず、本人の希望で入ってもらっている。リラックスして入浴できるように、1日の入浴人数は少なくして、会話が弾むような声掛けを心がけている。身体の観察と軟膏塗布なども行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適に休まれるよう寝具や室温管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人一人に薬情ファイルを作り、用法や用量・副作用などの事確認把握し支援している。新しく処方された薬は本人様の状態を記録している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし家事作業や手作業好まれることが出来るようにしている。適宜散歩や外出など気分転換の支援も行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族参加行事や外出行事を行い違う場所での食事や家族との楽しい時間が出来るようにしている。	日課として周囲の散歩を少人数で15分ほど行っている。カラオケ好きの入居者と一緒にからオケ店に行き満足そうな表情が見られた。敬老のお祝いをしたいという家族の希望で送迎を行ったことがある。今期は買物ツアーを企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様からの希望や必要に応じ施設立替金より援助。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により先方や御家族確認の上対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を行い匂いや室温湿度には配慮している。花壇を作ったり季節の飾り付けを入居者で行っている。	中庭に面した採光のよいリビングの壁面や天井には、職員の得意分野を活かし入居者にも手伝ってもらった季節感を感じる飾り付けがされていた。消臭効果や感染防止のために大きなプラズマクラスターが廊下に設置されており、施設内の空気は清浄に保たれ、入居者のインフルエンザ感染者がでなかったという効果があった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子を色んな形に置いたりソファの設置で共用空間の中で過ごしやすくしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の馴染みのあるものや写真など飾って頂き心地よい環境を家族と相談して提供している。	ベッド、クローゼット、洗面台、防災カーテンが居室に備え付けてある。思い入れのある家具の上には、入居者の笑顔あふれる写真が貼られた誕生日の色紙が飾っていた。掃き出し窓からは、広い芝生の庭とプランターに植えられた花で、開放感や季節感が感じられた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内表示や手すり・誘導灯の設置を行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200630		
法人名	社会福祉法人 福岡ケアサービス		
事業所名	グループホーム安養 西棟		
所在地	福岡市西区生の松原3丁目13番15号		
自己評価作成日	平成29年5月9日	評価結果確定日	平成29年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.kougensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=4071200630-00&amp;PrefCd=40&amp;VersionCd=022">http://www.kai.kougensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=4071200630-00&amp;PrefCd=40&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成29年5月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に立つ南欧風の建物が特徴。テラスの屋根を開けると春は桜吹雪や暖かい日差しが、夏は打ち上げ花火が響いたり、冬は深々積もる雪と四季の風情が感じられます。月例行事も1月の初詣や2月の節分3月のひな祭りつ食事外出4.5月桜や藤の見学など他にも沢山、苑内はもとより外出もバラエティーに富み季節感が感じられるレクを提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はいつでも確認できるよう玄関に掲示しておりいつでも確認出来るようにしている。内部研修でも周知している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りに入居者の参加や模擬店を出したりしている。秋祭りには地域の中学生の演奏や小学生のダンスなどで交流		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に関わりのある方々の見学を受け入れを行っている。運営推進会議でご家族向けには実施		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況や取り組みなど施設内における様々な件につき報告を行い、それに対しての意見については今後の運営に繋がるよう早急な対応を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ関係部署へ連絡相談を行っているが密までとは言えない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修を行っている。日常からスピーチロックについては都度指導。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で研修があり参加出来なかった職員にも資料に目を通してもらうなどしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約書は読みながら説明、都度質疑をとっている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来苑時に意見があるときは都度聞いており早い対応を心がけている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日中でも意見があれば都度聞くようにしており対しては早々に対応するように心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の中に担当を持ってもらったり、少し難しいことにもチャレンジしてやり甲斐を持ってもらう。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	やる気や性格を重視している。本人の能力や特技を活かせる仕事を任せる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	法令遵守や倫理について法人研修を行っている。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実技については日常の業務の中で、知識についてはミーティングや関係各所と連携して実施		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで他施設の担当との交流の機会を持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行い本人様の気持ちなどヒヤリングを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や契約時話をする時間を設け要望など確認している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスとして提供可能どうか、出来るサービスの提案を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介助や援助を行うだけじゃ無く、その方の得意なこと指導してもらうなど色々な事に参加して頂く		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来施時に近況報告を行い、コミュニケーションに努め特変あれば連絡するなど情報共有している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に自宅にお連れしたり馴染みの方や物と触れ合ったりすることの調整を実施		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席位置や支援内容に繁栄させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の長期化等で退去されてもその後の事について相談に乗ったり対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族からの情報や要望と本人様からの状態から判断している		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族へのヒヤリングから情報収集に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過・申し送り・日誌に記入し情報共有を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や本人様からの要望を元にミーティングの中で検討している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのチェック表を活用し振り返り(反省を踏まえ)実践に生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズや問題点は会議で検討早々にプランへの繁栄を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園児交流や職場体験の受け入れ・地域の行事へ参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	要望や疾病の度合いに応じ選択できるようにしている		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週内の受診や病状について伝え情報を共有し指示などもらっている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	3ヶ月に1度協力病院とミーティングをおこなっている。入院時は早期退院出来るよう働きかけカンファへの出席も行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師・看護師と連携をとり、家族の要望も聞きながら一番良い方法(対応)を考え提案している。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時勉強会や消防の講習会へ参加して知識を身につけている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間行事として避難訓練や呼集訓練を行いまたミーティングで身体別の避難のさせ方など勉強会の実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さり気ない対応を行っている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問・提案型の声かけを行い本人様の意志を尊重している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニットケアの実践、入居者優先の業務の進め方達成率55%		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日同じ服にならないよう必ずタンスから違うものをの選ぶ又選べるよう配慮している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は出来る限り自力で、介助が必要でも必ずプロセスを踏む。食後の後片付けは職員と一緒にやっている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1回当たりの摂取量が少ない方には回数を増やすや内容を変えるなどで対応、食事については高カロリー飲料の摂取を行こなっている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや口腔体操時唾液線のマッサージなど行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間の把握し誘導。状況に応じ布・紙・下着やパットの使用を変更している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の牛乳摂取。散歩や体操で体を動かす。往診の先生に相談し必要な方は排便コントロールを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順については希望を重視。今までの生活のリズムで希望があれば対応している		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況に応じ対応している。また日課や楽しみへの参加が決まっているなどに実施		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内容に変更があるときは日誌やノートに記載して共有、服薬については手渡し・ゼリーいづれも口腔内を最後まで確認。薬情ファイル作成セット時に前回と比較や変更や薬の在庫の期間の確認		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体機能を考慮し出来ることの把握、提供。少しずつ内容をアップさせたりしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩や買い物へお連れして気分転換出来るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動売店や外出時に使用できる場面を作っている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望時には対応している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるモチーフを入居者様に作っていただき飾っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の位置は決めているが、どこにでも座れる。居眠りされてもソファーなどの配置で対応		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されてきた馴染みのものを配置し環境作りをしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	主な部分には表示板を、誘導灯や手すりを設置		